

和地ひとみレポート No.430

『第2期 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン』
2060年の東大和市の目標人口は74,071人



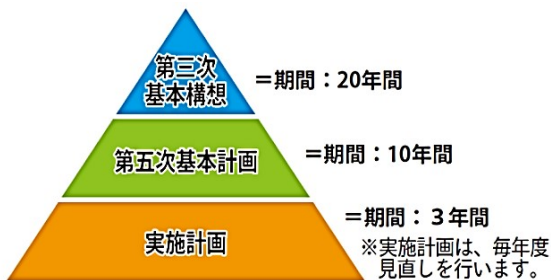
■第五次基本計画に合わせて

…日本の行政は、行政法学で言う「計画行政」という概念に基づいて運営されています。この「計画行政」とは『行政上の目標を達成するために立てられた計画に基づいて行われる行政』のこと。

よって、東大和市も様々な政策ごとの“計画”にそって行政を進めています。その最上位にあるのが総合計画です。

…このレポートでも何度か触れていますが、令和4年度は、市政の最上位計画、そして、東大和市のまちづくりの指針である新しい総合計画「輝きプラン」の計画期間初年度です。この総合計画は、1つの計画ではなく、第三次基本構想、第五次基本計画、実施計画の3つで構成されます。

【総合計画の構成：全て初年度は令和4年】



…一方、国は平成26年（2014年）に「まち・ひと・しごと創生法（以下「創生法」）」を施行。この法律は、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施していくことを目的としています。

…この「創生法」では、市の実情に合わせた計画を定めることは努力義務でしたが、平成27年度（2015年度）に、東大和市は基本構想と基本計画に沿った地方版総合戦略として「第1期 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定。施策を進めてきました。…前述のとおり、この地方版総合戦略の基となる第五次基本計画が令和4年度よりスタートとなることに伴い、市は「第2期 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を令和4年3月に新たに策定しました。

…今回策定されたまた「第2期 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は上位計画である第五次基本計画に包含した形で策定。また、「第2期 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進に関して必要な事項は、実行計画（アクションプラン）で定めることも基本計画内で定義しています。よって、『第2期 東大和市まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン（以下、第2期総合戦略アクションプラン）』も同時に策定されました。

【第2期東大和市総合戦略アクションプラン】

◆基本目標と施策の方向

第五次基本計画の重要施策を進めることは、“まち・ひと・しごと創生”の観点から目指す「人口減少の抑制」、「地域の活性化」と同じ方向。この方向を目指し、重点的、優先的に推進していく施策として、第2期総合戦略アクションプランの施策と基本目標を位置付ける。

◆計画期間：総合戦略アクションプランは5年間

第五次基本計画の計画期間は令和4年度からの10年間だが、総合戦略アクションプランの計画期間は令和4年度からの5年間。ただし、期間内であっても、社会・経済情勢の変化等に応じて、必要な見直しを行う。

■市の人口の推移は

…上記のとおり、“まち・ひと・しごと創生”の観点で進める施策の目的は「人口減少の抑制」、「地域の活性化」。よって、『第2期総合戦略アクションプラン』には、市の人口動態や将来人口の見直しなどについて明記されています。

…市の人口に関する数値には「出生数・死亡数」、また、出生数に関連する「出生率」のほか、「転入数・転出数」、また、それに関する「住宅新築数」があります。以下は、近年の東大和市の状況のポイントです。

※年号は西暦のみ表示

【出生数・死亡数の推移】

出生数：2012年＝765人 ➡ 2021年＝511人

死亡数：2012年＝694人 ➡ 2021年＝876人

出生数は、2014年の転入者の増加に連動するように2015年に大きく増加(778人)。それ以降は減少傾向。特に2020年以降は新型コロナウイルスの影響で、出産控えが進んでいるという全国的な傾向と同様。死亡数については2016年以降、出生数との差が拡大傾向。(死亡数が増え、出生数が減る)

【合計特殊出生率の推移】

東大和市の率：2012年＝1.54 ➡ 2019年＝1.34

東京都の平均：2012年＝1.09 ➡ 2019年＝1.15

全国の平均：2012年＝1.41 ➡ 2019年＝1.36

東大和市の合計特殊出生率(その年における各年齢：15～49歳の女性の出生率を合計したもの)は、2016年には1.67と全国平均1.45を大きく上回り、多摩26市では第1位。その後の多摩26市内での順位は、2016年は第3位(1.48)、2017年は第1位(1.59)、2018は第2位(1.47)。2019年は全国平均を下回るものの、多摩26市では第4位。
(裏面に続く)

【転入数・転出数の推移】

転入数：2012年＝3,632人 → 2021年＝3,452人

転出数：2012年＝3,558人 → 2021年＝3,148人

2015年以降、転出超過傾向だったが、2018年と2019年には転入数と転出数が拮抗し、2020年と2021年には、転出数の減少により転入超過となった。転入数の増加の要因の1つは、市内住宅新築数が関係していると考えられる。

【市内住宅新築数】

木造住宅棟数：2012年＝304棟 → 2020年＝276棟

（非木造住宅）

マンションの戸数：2012年＝304戸 → 2020年＝0戸

マンション以外の棟数：2012年＝31棟 → 2020年＝21棟

2012年および2013年には、1年あたり300戸を超える大規模マンションが新築された。2019年にも100戸規模のマンションが新築された。

…このような人口の増減に関係する様々な状況により、東大和市の住民基本台帳における人口は、2015年の86,162人をピークに減少傾向となっており、2020年には85,301人となりました。しかし、その後は、ほぼ横ばいという状況です。

2012年＝83,479人 → 2022年＝85,285人

■人口の目標は

…このような人口の推移を踏まえ『第2期総合戦略アクションプラン』でも、市は、目標人口を設定しています。

…もちろん、今回、策定された『第2期総合戦略アクションプラン』の前の『第1期総合戦略』（計画期間2015年度～2021年度）でも目標人口は設定されていました。

【第1期総合戦略での人口の目標】

国勢調査や国立社会保障・人口問題研究所の2013年の推計などによると、2060年の東大和市の人口は70,529人となる。しかし、市は総合戦略の様々な施策を実施することで、国の推計よりも約8,000人の人口減少の抑制を図った78,801人を目標人口と設定。

【第1期総合戦略期間中の市の人口＝国勢調査の結果】

※2010年を基準にしている

国勢調査年	2010年	2015年	2020年
将来推計	83,068人	84,936人	85,268人
A 目標人口	83,068人	84,920人	85,610人
B 実績	83,068人	85,157人	83,901人
AとBの差		+237人	△1,709人

…市は、第1期総合戦略の施策の推進に当たり『東大和市まち・ひと・しごと創生会議』を設置。そのメンバーは、東大和市のまち・ひと・しごと創生アドバイザーの牧瀬稔氏（関東学院大学法学部地域創生学科准教授

兼、社会情報大学院大学特任教授）を座長とし、市民、産業、行政機関、教育機関、金融機関、報道機関などの関係者で構成されています。

…この会議では、第1期総合戦略の施策についての振り返りを実施し、さらに『第2期総合戦略アクションプラン』の策定についても意見を参考にしたとのことでした。

…そして最終的に決定された『第2期総合戦略アクションプラン』における2060年の目標人口は以下のとおり設定されました。

【第2期東大和市総合戦略アクションプランの目標人口】

～合計特殊出生率について～

人口推計調査報告書による合計特殊出生率から、2026年に1.6程度、2030年に1.8程度とし、また、2060年まで1.8程度が続いた場合の推計とした。

～純移動数について～

転入数から転出数を差し引いた純移動数も人口推計調査報告書の住民基本台帳人口の将来推計と同程度に、2060年までの間の1年あたりを平均し300人超の転入超過を見込んだ。

将来推計では2060年の人口は71,425人であるところ、アクションプランを推進することで、約3,000人の人口減少抑制はかった74,071人を目標人口と設定。

■各施策に具体的指標を設け

…この目標人口を達成するために、『第2期総合戦略アクションプラン』では、以下の基本目標、目指す方向性、具体的な施策が設定され、各具体的施策には、KPI（重要業績評価指標）が設定され、目標値が定められています。

【第2期総合戦略アクションプランの基本目標と目指す方向】

基本目標1：子ども・子育て支援施策の推進

目指す方向：出生数増加による人口の自然増を図る
具体的施策：子育て支援/子ども達の健全育成/学校教育)

基本目標2：健康・高齢者施策の推進

目指す方向：健康寿命の延伸による人口の自然増を図る
具体的施策：健康、医療/高齢者福祉/生涯学習/
スポーツ、レクリエーション)

基本目標3：都市の価値を高める施策の推進

目指す方向：転入の促進および転出の抑制による人口の社会増を図る。地域の活性化を図る
具体的施策：都市づくり/自然環境/商工業、勤労者支援/
防災/観光、ブランド・プロモーション)

…今号では、『第2期総合戦略アクションプラン』の人口減少抑制関連の内容を取り上げましたが、上記の具体的施策3については、『第2期東大和市ブランド・プロモーションアクションプラン』にも関連するので、次号のレポートでご報告したいと思います。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前で配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102